

アニメ『ルパン三世』でルパンの名相棒を務める次元大介の声を演じていた小林清志さんが勇退されることになりました。御年八十八歳、流石に次元の声を続けることに限界を感じられたのでしょうか残念なことです。

放送当初の配役『ルパン』山田康雄』『五エ門』大塚周夫』『銭形』納屋悟朗の面々は鬼籍に入られ、不二子ちゃん役の二階堂有希子さんは既に引退されているそうです。小林さん一人、五十年に渡りオリジナルのまま変わらず続けられたこと自体奇跡に近いことだったのでしょうか。

最初にルパンが放映されたのは一九七一年、私が小学校五年生のときでした。他の子ども（幼児）向けキャラが登場するアニメとは一線を画した、洒落たストーリーと大人っぽいハードボイルドタッチな作画と展開に、ちよつと背伸びをし始めた小学校高学年の男子児童たちは夢中になって見ていたものです（多分女子は裏のカルピスマンが劇場を見ていたのではないかと）。

原作漫画はモンキーパンチ先生の手による無国籍風アクションものですが、TVアニメ化に際しキャラクターデザイン、設定、作画監督を務めたのが津和野町出身の大塚康生さんでした。大

塚さんはメカニックにもこだわりを見せ、銃や自動車も実在の物を元に描いたのです。ルパンの愛銃ワルサーP38のカッコよさは勿論、次元の片腕S&W M19コンバットマグナムの頼もしさ、不二子ちゃんがガーターに忍ばせたブローニングも素敵でした。

ですが残念なことに大人向けを意識しすぎた所為か、アニメ（当時はテレビまんがと言いましたが）をよく見る年少の子ども世代には全く受け入れられず、視聴率は散々だったといえます。それが五十年も続くシリーズになるうとは、小林さんにとつても思いもよらぬことだったに違いありません。

さて、気になる新しい次元の声ですが、大塚明夫さんに決まったそうです。納得の配役です。ご存知の方も多いでしょうが、大塚さんは初代五エ門や初代ねずみ男、映画ではチャールズ・ブロンソン等癖のあるキャラの吹替えを得意とした大塚周夫氏のご子息で、お父さんとは質の異なる低くて男臭い美声の持ち主です。もう私の頭の中では脳内変換で大塚明夫さんの声で喋る次元大介の姿が出来上がっています。カッコいいこと請け合いです。

2021.9.13

専業ババ奮闘記（その2） 67

木幡智恵美

コロナ禍の中で（6）

「しゅうちゃんは元気かいね」「あら、昨日来ましたかね」「そげだったかいね」。義母の会話に出てくる人物は、宗矢が主流になってきた。これまでは、「寛大ちゃん、来んかなあ」「みいちゃんはどげしちようかな」と話すことが多かったのに。寝返りする様子や、声を掛けると返す笑顔が可愛くてたまらないようだ。

そんな義母に、突然不機嫌になることの他に以前と変わってきた点がいくつかある。暑さ寒さの感覚もそうだ。

ビア樽のような体形をしていて、自分のことを「ぼてちゃん」と言っていた義母も、腹回りは維持したまま、かなり体重が落ちてきた。そのせいもあつてか、ひどく寒がりになった。「寒て寝られん」と言われるので、秋口から大布団を出す。まだ寒いと言われ、「真冬はどうするんですか」と言いながら、電気毛布を敷き、ストーブも部屋に運び入れた。歩くこともままならず、じつとしてから余計に寒く感じるのだろう。

暑さに対しても、えつと思うことが多くなつた。義母の部屋は南向きで、冬は陽が入つて暖かい分、夏は早くから気温が上がっていく。毎年のように気温が上昇し、「危険な暑さです」がテレビから毎日のように流れてくる昨今、扇風機やエアコンの操作をしなくなつた義母の部屋の空調はこちらで管理しなくてはならない。

デイサービスに行かない日など、朝九時を過ぎ、三十度を超えていても、平気で眠っている。度々部屋を覗いて扇風機をつけたり、エアコンをつけたり。陽が射すと部屋が益々暑くなるのでカーテンを閉めると、「開けてください」と言われる。訳を話して部屋を後にし、しばらく経つとドンドンと襖を叩く音。いくら話してもだめな時は、言われるがまま、カーテンも、ガラス戸も全部開ける。しばらくして部屋に行くと、三十度を超えた部屋で眠っている。慌てて戸を閉め、エアコンをつけたことも二度や三度ではない。

襖ドンドン、トイレだけでなく、「熱がある」などの訴えの時もだ。計ると平熱で、「暑いんですよ、夏だから」と、エアコンの温度を下げる。三十分も経たないうちに、またドンドン。今度は「寒いです」と言われ、設定温度を上げる。毎日がこれの繰り返しだ。



30代フリーター やあ、ジイさん。菅義偉が自民党総裁選への出馬をあきらめたのを見て、コロナは政治指導者の命取りになるんだなと思った。安倍晋三が辞めたのも持病の悪化というのは口実で、ほんとうはコロナに追い詰められたせいだ。

年金生活者 菅の退陣表明はコロナ対策をめぐって医師会や病院業界などの「医療権力」にあらがおうとして、国民の支持を失った結果と映る。

「医療権力」が目指すのは基本的にゼロコロナだ。とにかく感染を防ぐことを最優先し、感染が広がった場合の対応は二の次にする。その結果、国民には行動の制限を求めるのに、自らの行動変容、つまり医療供給体制の拡張には消極的になる。

それが続くと経済は損なわれる。菅政権が最も懸念したのはそこだ。経済の停滞は政権を脅かす。GOTOトラベルに執心し、五輪の有観客開催にこだわったのはそれを心配したからだ。菅義偉は本音では新型コロナウイルスを普通

何度も口にしても、国民の目にはコロナを野放しにしているとしか映らなかったのだろう。

菅義偉にはできることなら医療界の「既得権益の打破」に手をつけたいという野心があったと推察される。しかし、国民の支持がないことにはどうしようもない。だとしたら、国民を納得させるコロナ対策の全体像を発信することがどうしても必要になってくる。河野ならそれをできるかもしれないと菅は判断したのではないか。

30代 菅の退場で衆院選は自公の圧勝との見方さえある。
年金 リベラル風味の岸田文雄、ネットウヨに人気の高市早苗、何するかかわらない河野太郎。

自民党総裁選でこれだけ毛色の違う役者がそろえば、野党の出る幕はない。国民の目にはそう映っているのではないか。自民党の強みのひとつが、今はやりの「多様性」にあることをあらためて示している。

これに対して、野党第1党の立憲民

の風邪に近い感染症と考えていたのではないか。だから、ゼロコロナではなくウイズコロナを目指そうとして、特に最近では医療供給体制の確立を強調するようになっていた。それは「医療界」の既得権益を奪うことにつながる。医師会や病院業界は抵抗した。国民の行動制限こそが大事だ、と。

医療への信仰を持つ国民の多数はそうした「医療権力」のゼロコロナ路線を支持し続けた。政権の振る舞いはことごとくそれに反することのように国民の目には映つたに違いない。

30代 新型コロナウイルス対策はゼロコロナを目指せば経済を損なって国民生活を圧迫し、ウイズコロナを目指せば国民の不安を誘うというジレンマをはらんでいる。
年金 ゼロコロナの実現は不可能なことであり、ウイズコロナを選択するしかない。それには国民の不安を払拭する必要がある。そのためには、風邪やインフルエンザのように、いつでもどこでも診療を受けられ、重くなる恐れ

主党はリベラルに傾斜し、保守政治家はいるものの党としては単色に近い。この「多様性」の乏しさが支持率の低迷の一因になっている。

立憲民主党の前身の旧民主党が政権を奪取できたのは「寄り合い所帯」と揶揄されるほど「多様性」を備えていたからだ。それが消費増税をめぐって分裂し、「多様性」を失って、政権の座から滑り落ちた。

アメリカやイギリスの2大政党は日本の自民党ほど「多様性」はなく、リ

があればすぐに入院できる医療体制が必須となる。

その構築は「医療権力」の強い抵抗に遭うことが必至で、政権がかわったからといって出来るようになる保証はない。「既得権益の打破」を公約に掲げて総理大臣になった菅にさえできなかった。だとしたら、次の政権もゼロコロナとウイズコロナの間でふらついて国民の支持を失い、短命に終わる可能性がある。

30代 菅義偉が自民党総裁選で河野太郎を支援する意向を周辺に伝えたことと報じられている（9月4日読売新聞オンライン）。

年金 コロナ対策で自分のできなかつたゼロコロナからウイズコロナへの転換を河野にやってほしいと考えているのではないか。

菅も河野も恫喝やパワハラで役人を脅して言うことを聞かせる手法は共通している。違うのは菅には河野のようなメッセージの発信力がないことだ。そのため、コロナ対策と経済の両立を

ベラルカ保守かといったそれぞれの色が単色に近いように見える。「和」を好み、強い自己主張や鮮明なイデオロギーを敬遠する日本人固有のメンタリティーが自民党の「多様性」には反映されている。

その「多様性」の多様な要素の中で軸になっているのが保守性だ。おそらく日本人は左派が不在の「多様性」は支持しても、保守が不在の「多様性」は政権をまかせせるほどは支持しない。

旧民主党政権が共産党抜きで連立政権だったことはそれを示している。東西冷戦が続いた第2次大戦後の世界は、一党独裁のソ連や中国のせいだ左派は保守よりも「多様性」に非寛容というイメージが定着したことが影響している。

30代 野党の出る幕はいつまでもないままか。

年金 あるとすれば、旧民主党に劣らない「寄り合い所帯」になったときだろう。勢いがあつたときの旧民主党は自民党に劣らぬ「多様性」があつた。

ニュース日記 799
中村 礼治

菅退陣